

西日本豪雨から学んだこと
北杜市立甲陵中学校 三年 村上 優

平成三十年六月二十八日から七月八日にかけて、集中豪雨が日本を襲いました。二百人以上の方々が亡くなられ、現在でも行方不明の方の捜索が続けられています。また、家に帰ることができない被災者の方々も多くいます。私の父は山口県出身です。そのため、私の親戚の多くが山口県や広島県に住んでいて、友達もたくさんいます。夏になるとよく山口

県に行って友達と遊んでいました。しかし、今回の災害によって親戚や友達に被害が出てしまいました。幸い皆無事でしたが、広島県の呉市に住んでいる友達は洪水によって車が流され、水が家の天井までくる被害を受けたそうです。災害が起こってから何日かたつた後に友達から水の引いた後の家の写真が送られてきました。そこには泥まみれになっている床や壁と、水によってふにゃふにゃになりました。今にも崩れてきそうな天井が写っていました。

その写真を見て、私は初めて災害に対して恐怖を抱きました。さっきまで普通に暮らしていた場所が突然無くなってしまふということに本当に起こることを実感し、他人事ではないということに気が付きました。

このことをきっかけに私は今回の災害について詳しく調べてみました。すると、洪水によって被害を受けた方よりも、それによって引き起こされた土砂災害によって被害を受けた方のほうが多いということが分かりました。

そこで私は被害を少なくするためには土砂災害を防いでいかなければいけないと考えました。土砂災害を防いでいくにはどうすればいいのかと考えたときに、もう一度今回の災害を調べてみました。すると、砂防ダムが崩壊し、それによって土石流にのみ込まれてしまった地域があったことが分かりました。砂防ダムとは本来であれば山地や溪流から土砂が流出することを防ぐためにあるダムです。しかし、今回の災害ではその砂防ダムが壊れて

しまいに被害が拡大してしまいました。こんなことはあってはいけないと思います。そこで、土砂災害を防ぐためにはまず、砂防カムの点検をし、補強をする必要があると考えます。きっと多くのカムが作られてから何十年もたっていて、作られた当初よりも強度が落ちてきているのではないのでしょうか。この災害が起きてしまった今だからこそ、もう一度見直すべきだと私は考えます。次に土砂災害を防ぐためには土石流自体を防いでいかなければいけな、いと考えました。そこで私は土石流を防ぐためにはどうすればいいのか考え、調べてみました。すると山腹工という事業があることが分かりました。山腹工とは、山に柵や壁を設置して土の動きを抑える工事や、土が流れ出さないように草木を植える緑化の工事を行うなどの山を土砂が流出しない安定した山肌に戻す工事のことをいいます。山腹工をすることにより、山の崩壊斜面の拡大を防ぎ、地震や豪雨が起こり、その後、雨が降ったと

しても、土砂が下流へ流出することを防ぐことができません。私はこの山腹工の存在を知ったとき、小さい頃に一度だけ参加した植林活動のことを思い出しました。当時の私は何気なく木を植えていて、あるおじさんが植林をするのとたくさんの良いことが起きると私に教えてくれたときもこんな良いことが起きるのか全く分かりませんでした。しかし、今回、山腹工の中の一つの工事として、草木を植えて緑化を行う工事。つまり、私が小さい頃何気なく参加し、行っていた植林は緑化につながり、そして、土石流を防ぐための活動であったことに気づきました。このことから、小さい子でも土砂災害防止の活動に参加できると考えました。

これらのことから、私は土砂災害を防止するためには、何か新しい事業を始めるのではなく、まおは、今あるカムや行われていた事業を見直したり、活動を活発にさせていったりする必要があり、考えます。カムや壁などは

作ることは国でないとできないですが、植林
などは小さい子も参加することができる活動
だと思っています。私もまずは自分の身近な活動
を行い、土砂災害防止に少しでもつなげてい
きたいと思っています。今回のような多くの人に
被害をもたらす災害が起こらないようにして
いきたいです。